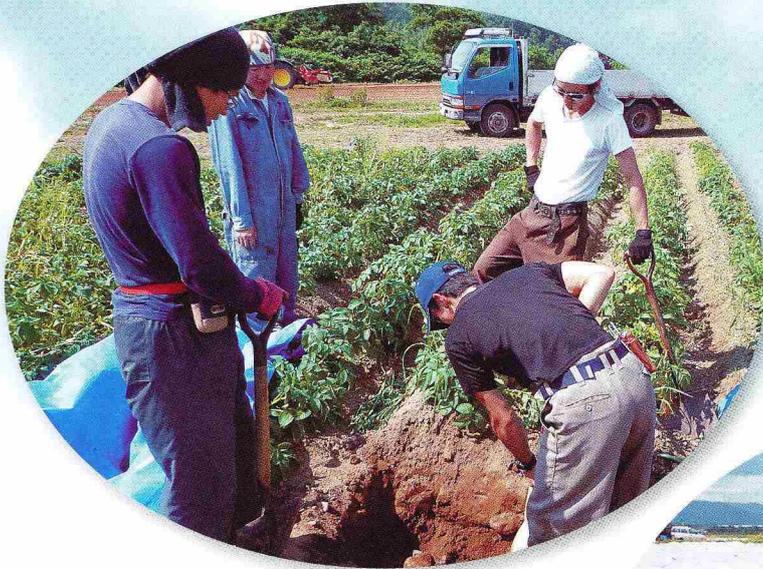


No.19  
2018年1月

# 情報ネット後志

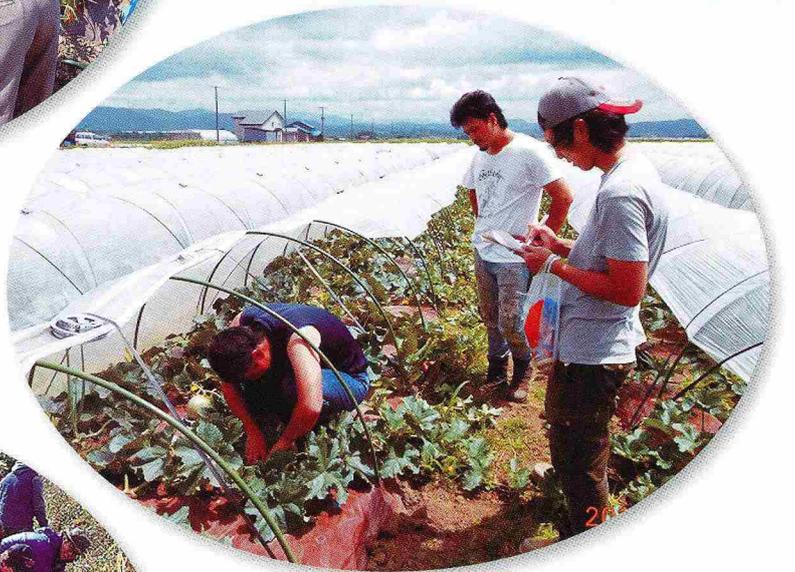
後志農業改良普及センター



## ←「土壌断面調査」

プロジェクトほ場の低収の原因を探る  
(京極町4Hクラブ)

「メロンの生育調査」→  
メロン障害果発生要因を解明する  
(共和町4Hクラブ)

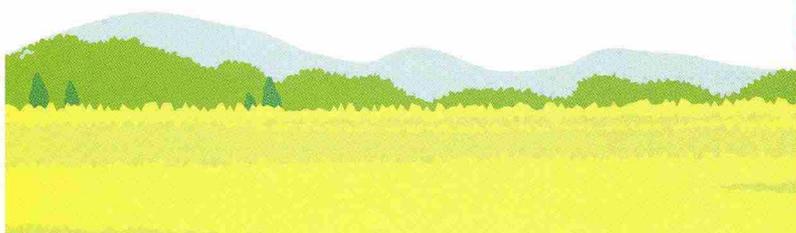


## ↑「かぼちゃの栽植密度試験の調査」

栽植密度の違いによる収量差を把握する  
(真狩ドリームファクトーズ)

## 表紙 4Hクラブ プロジェクト活動の 取り組み

- 2頁 ・年頭のご挨拶  
・リゾート地区へ地元農産物・加工品PR (倶知安町・ニセコ町)
- 3頁 ・ときめきネットワーク研修会 (余市町)  
・水稲疎植栽培導入による省力化 (共和町)
- 4頁 ・後志におけるRTK自動操舵システム導入の効果検証 (普及センター畑作部会)  
・おしらせ





新年明けましておめでとうございます。平成30年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

日頃より、農業者並びに関係機関・団体の皆様には、農業改良普及事業の推進につきまして、多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、4月18日の強風、9月18日の台風18号の大雨などにより、農作物被害が発生しましたが、総じて収量・品質を確保できたことは、ひとえに農業者の皆様をはじめ、関係者一丸となった努力の賜物と考えております。

普及センターでは、平成28年より5ヶ年の普及計画を策定し活動しており、今年はその3年目となります。

需要に応じた安全・安心な農畜産物生産、高付加価値化、多様な担い手の確保・育成、ICT農業の導入支援など「地域に担い手が残り、残れる農業の創造」を目標に、引き続き農業者の皆様、関係機関の方々と一体となり職員一同全力を尽くす所存です。

結びになりますが、本年が皆様にとってより良き年になりますよう、心よりご祈念申し上げます。

応援

## ニセコリゾート圏での地産地消、 地域農業の発信へ



▲写真1  
ホテル関係来場者等と名刺交換・プチ商談中のよしかわファームさん（留寿都村）

中で、農務担当スタッフが中心となり「後志の地元農畜産物・水産物展」を開催しました。JAや農業者の方々が出展し、ホテル関係来場者等を対象に「我が農場・農畜産物のPR・プレゼン」を行い、名刺交換・プチ商談も進めました。普及センターでは、後志の農業・農畜産物の新たな絆作りを推進していきます。

普及センターでは、農業者の方々の6次産業化など新たな農業展開の取り組みを応援しています。

その一環として、ニセコリゾート圏のホテル・レストランと後志の農業・農畜産物を結びつける地産地消や地域農業の発信に向けた活動を進めています。

去る11月11日には、後志総合振興局が主催した「平成29年度後志経済フォーラム（於：ニセコ町民センター）」の



▲写真2  
我が農場・農産物のPR・プレゼン（rural farmさん〈蘭越町〉）

### 「後志の地元農畜産物・水産物展」開催概要

出展者	20件（農業生産者：9件、加工企業：4件、JA・JF等団体：7件）
PR農畜産物等	冬野菜（葉物）、じゃがいも、長いも、ゆりね、メロン、トマト、なす、りんご、ベリー類、枝豆、ジャム、チーズ、海産物、海産加工品 など
来場者	ホテル・飲食店等関係者34名、経済フォーラム参加者約50名

## 地域の話題

# 「ときめきネットワーク研修交流会」 今年もにぎやかに開催！（北後志管内）

北後志管内の女性農業者グループで構成する「ときめきネットワーク」の研修交流会が、12月1日に農村活性化センター（余市町）で行われました。

研修交流会は年1回開催のため、グループの代表と1年間準備をしての開催です。今回は生産が盛んなミニトマトを使ったスイーツ作りと、体と頭を使ったゲームを行いました。



▲写真3  
51名の目がシェフに集中



▲写真4  
ミニパフェの完成で～す！  
上はぷるぷるのミニトマトゼリー、下はミルクプリン

スイーツ作りでは、千歳市に本社のある和洋菓子・パン製造販売会社「株式会社もりもと」が、仁木町や余市町のミニトマトを使用していることが縁で、講師に来ていただくことが実現しました。

4品種のミニトマトのパフェは品種の個性が表現され、どれも「おいしい～！」。

午後からのゲームは、あっという間のリフレッシュタイムでした。

8割の人が「大勢で集い、楽しかった」と答えた研修交流会でした。



## 技術

# 水稲疎植栽培導入による省力化 （共和町）

今年度から共和町では、町内2ヶ所で水稲の省力化・低コスト化に向け、「疎植栽培」の取り組みが始まりました。

疎植栽培とは、株間を広げて栽植密度を下げる栽培方法です。

疎植栽培を導入することで、①育苗コストの節約、②労働軽減、③病害虫の発生減、④倒伏抵抗性向上などの効果が期待されます。

「そらゆたか」と「ななつぼし」の2品種で栽培試験を行ったところ、株間を拡大することで育苗枚数は削減でき、育苗コスト削減や労働軽減効果がある一方、成熟期が3～4日遅れるなどの欠点も見つかりました。

今後は、高齢による農業者の離農と後継者不足から農家戸数が減少し、一部の担い手へ水田が集積することが予想されるため、疎植栽培などの省力化や低コスト技術のための情報提供を継続的に行っていきます。



▲写真5  
JAきょうわ青年部での講習会



▲写真6  
老古美地域（重点地区）での研修会

表1 疎植栽培と慣行栽培の差

	A農家 そらゆたか			B農家 ななつぼし		
	株間 (cm)	育苗箱枚数 (枚/10a)	粗玄米収量* (kg/10a)	株間 (cm)	育苗箱枚数 (枚/10a)	1.90mm粗玄米収量 (kg/10a)
疎植区	20	21	736	20	24	623
慣行区	12	26	681	14	33	683
慣行対比	8cm拡大	5枚削減	108%	6cm拡大	9枚削減	91%

※「そらゆたか」は飼料用米であるため、粗玄米収量で記載している



# 後志におけるRTK-GNSS自動操舵システム導入の効果検証

## 「大人の遊び道具」から「必要な農業機械へ」

平成29年春よりJAようてい管内で、ホクレンの低コスト型RTK基地局の、実証実験が開始されました。

基地局の年間利用料が1万円/台となったことから、自動操舵システムの導入が急増しています。

こうしたなか、普及センターでは「後志におけるRTK-GNSS自動操舵システム導入の効果検証」について取り組んでいます。

今年は、導入した生産者の方々より聞き取り調査を行った他、自動操舵稼働の有無による作業性の違いについて、録画を活用した比較を行いました。

初期投資が300万円程度必要なことから、「大人の遊び道具」との声もありますが、今後「必要な農業機械」として、普及につなげていきたいと考えています。



▲写真7 自動操舵を装着したトラクタ



▲写真8 水稲移植にも自動操舵が登場



▲写真9 大日本農会農事功績表彰を受章した佐々木雄三氏

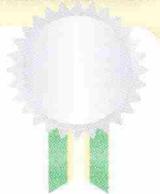
## 大日本農会農事功績表彰

りょくはくじゅうこうしょう

## 緑白綬有功章を受章

11月15日、北海道指導農業士の佐々木雄三氏（真狩村）が、大日本農会農事功績表彰緑白綬有功章を受章しました。

佐々木氏は、常に先進的な技術を取り入れ、地域への波及や多くの担い手育成などの取り組みが高く評価されました。



## 「全道新技術発表会」

最近の研究成果・技術に係わる発表会が開催されます。詳しくは普及センターへお問い合わせください。

- ・日 時：平成30年2月22日（木）
- ・場 所：かでの2・7

住所 札幌市中央区北2条西7丁目道民活動センタービル 電話 011-204-5100

## お知らせ



## 編集 後記

普及センターだより「情報ネット後志」について、アンケートへご協力いただいた皆様ありがとうございました。

アンケートでのご意見をもとに、限られた紙面ではありますが、今後も親しみやすい内容で、後志各地域の話題をお届けしたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

## 後志農業改良普及センター

- 本 所 住所：虻田郡倶知安町旭57-1 電話：0136-22-1072 FAX：0136-22-4744  
ホームページ：http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm
- 北後志支所 住所：余市郡余市町朝日町11番地1 電話：0135-22-5135 FAX：0135-22-5987  
ホームページ：http://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/kita/index.htm